21世紀へ

今、新たなる国際交流がはじまる。……

より強い絆を深めて……

留萌市――ウラン・ウデ市 姉妹都市提携20周年

留萌市がウラン・ウデ市と姉妹都市提携調印をした昭和47年は留萌市総合計画（46年度～55年度）の策定された年でもありました。そして、今年20年をむかえました。この間世界は大きく変わり、国際化をめざした留萌港の役割の中で、平成2年中国営口市との友好港湾提携がされ、国際貿易港としての限りない可能性を秘めて期待が高まっています。いま、世界へと開かれたまちづくりに留萌の夢がひろがります。

現在のウラン・ウデの横顔

ウラン・ウデ市は、東シベリアの工業の中心地として、北から南にかけて針葉樹林におおわれた山々にとり囲まれています。

また、ブリヤート共和国の産業工業、経済、文化及び行政の中心であり、人口は二十六万人、極東及びシベリアにおける大都市のひとつに成長しました。

シベリア鉄道の本線が走っており、近郊からはモンゴル人民共和国のウランバートル・北京への幹線が分岐している拠点都市です。

産業として、機械製作、金属加工、食料品工業、特に航空関連の他、機関車、車両修理など機械製作、と金属加工が主産業であり、これらの製品は国内各地におくられています。

教育文化では、市内に4つの大学、17の専門学校があり、機械、農業、畜産、の技師、獣医、教師、司書、医療従事者、音楽家、歌手、舞踊手などの専門家を養成しています。また、ロシア演劇のためのオペラ劇場、ブリヤート国立フィルハーモニーがあります。

友好確認の声明書にサイン後握手する両市長（10月18日市長公室にて）

留萌市――ウラン・ウデ市交流経過

昭和46年1月ウラン・ウデ市長に対し、留萌市長及び日ソ協会留萌支部長名のメッセージを送付し、在札総領事より姉妹都市提携了承の連絡が入り友好の絆が結ばれました。

そして翌年、当時の原田市長、堀松議長、黒江日ソ協会留萌支部長の一行がウラン・ウデ市を訪問、昭和47年7月5日留萌市とウラン・ウデ市との妹姉都市提携が正式に調印されました。

この間、留萌市との相互交流は10回に及び小、中学校児童の絵画の交換、絵画展の開催、民族オーケストラの公演など着実に交流の輪が広がっています。

この度のウラン・ウデ市代表団の訪問は10月15日から18日の日程でビクトリー・ククシーノフ市長・ボリス・レフ市議会議員・アレキサンドル・カレーネフ共和国議会議員一行の3名が訪れ、両市の交流事業について懇談をされ、保育所、市立病院、水産加工場等を視察し神居岩総合公園では20周年を祝い記念植樹を行いました。

提携20周年記念植

中国遼寧省営口港との友好港湾提携

両港の友好港湾提携は、平成2年4月17日営口市において黄恩元港湾局長、五十嵐市長（港湾管理者）との間で正式調印されましたが、本年4月9日より、8日間にわたり、留萌市卓球、経済友好訪問団が、スポーツ、経済交流を深めてきました。この時は営口港のコンテナバース完成式で、国際的流通の貨物輸送がコンテナ方式を占めつつあることから、バースの整備ともに営口港はこれからの発展が大きく期待される都市でもあります。

家庭婦人の初めての訪問は、スポーツを通じ色々な面で国際交流として大きな成果をあげてきました。

とりわけ、子育ての事から衣食住に至るまで心と心の交流も出来たことはこれからの絆をますます強くすることでしょう。

8月2日には、営口市経済代表団（団長・朱殿武営口市人民対外友好協会長一行5名）が来留され、友好港湾提携から二周年を迎えることから、今後も両市との経済、技術交流を進めるため、経済団体との懇談のほか、留萌市の産業、経済の様子を視察し、市民との交流を深めました。

営口市代表団と経済団体との懇談（8月4日）

ロシア共和国ソビエツカヤガバニ市との交流

留萌市とソビエツカヤガバニとは、かねてから交流の機会を模索しておりましたが、旧ソ連の国内情勢、軍用船の港としての関係から交流は実現出来ない状況にありましたが、本年5月ソビエツカヤガバニ市のルカシェビチ・ハーベル・アレクサントロビチ市長より五十嵐市長宛に代表団の受け入れについて承諾の親書が届き、訪問が実現しました。

視察団は、市長を団長に市議会、経済界、行政側の11名で（10月5日より11日まで）訪問しましたが、経済、文化、行政それぞれの立場で意見交換がすすめられ、今後の人的交流についても話し合われました。

ソビエツカヤガバニ市は、ハバロスク州の間宮海峡沿岸に位置し、人口は五万八千人の都市で旧ソ連の時代には軍用船の修理工場の市で有名であり、現在においても船舶修理工場、鉄筋コンクリート工場、縫製工場などあります。

シベリア鉄道の終点で、空港を抱え、交通機関の要衝でもあり、木材工場、遠洋漁業の基地などもあり、特に港のまちとして留萌市との共通性から今後の交流計画も進められ、新しい交流が芽生えようとしています。

相互交流について懇談（10月6日ソビエツカヤガバニ市にて）

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

留萌市の国際交流事業も着々と実を結びつつありますが、こども達とのスポーツを通じ、身近な国際交流の場として、また、ホームスティをしながら諸外国との文化にふれあえる場として、北海道インターナショナルスクールスポーツ交流事業が行われています。

今年は、44名の児童が留萌を訪れ小学・中学・高校の生徒と元気に友情を深め、ホームスティの家族との楽しい思い出をつくり、二泊三日の楽しいひとときを過ごしました。

留萌市の国際化も着実に進んでいます。ウラン・ウデ市姉妹都市提携20周年を機会にこれからの21世紀に向けた新しい国際交流のあり方について、市民のみなさんと一緒に考えていきたいものです。港を通じて世界との距離はますます近くなりました。

インターナショナルスクールの子供たちとフォークダンスで交流（港北小学校にて）